

アジャイルソフトウェア開発技術者検定試験レベル1 合格体験記

アジャイル開発に関する民間検定試験にアジャイルソフトウェア開発技術者試験があります。このレベル1試験を筆者は2020年7月に受験し合格しました。

(1) 試験の概要

アジャイル開発のスキルを客観的な尺度で分析・判定する試験で、現在、レベル1とレベル2の試験が実施されています。

レベル1はアジャイル開発に参加するのに必須となる知識が出題されます。XP等さまざまなアジャイル開発手法があり、プロジェクト規模も多様ですが、すべてのアジャイル開発に必要なスキルが認定されます。

レベル2は、アジャイル開発のチームメンバーとして必須となる知識が出題されます。他のメンバーに教えられる(説明できる)レベルであることが認定されます。

なお、レベル2の受験資格はレベル1に合格していることなので、レベル1から受験する必要があります。今回受験したのはレベル1です。

(2) 特徴

IoT検定と同じで、CBT(Computer Based Test)で行われ、通年全国で受験可能なこと。プロメトリックス社のサイトからいつでも申し込みができ、全国にある提携試験会場で受験できます。試験時間は60分。60問で四者択一問題です。80%の正答率で合格します。80%と高い正答率が求められているのが問題です。ケアレスミスが許されませんので、解答を十分に見直しする必要があります。

試験を終了しアンケートの入力が終わると送信され、すぐに点数と合否がわかります。その後、メールで分野ごとの正答率がわかるレポートが見られるサイトが通知されます。問題ごとの解答の正否はわかりませんが、分野ごとにどこの正答率が高かったのか、低かったのかがわかるのもIoT検定と同様です。

(3) シラバス

試験範囲は次のとおりです。

- ・アジャイル開発に対する基礎知識：アジャイル・マニフェスト、アジャイル原則
- ・開発チームの運営：コミュニケーション、自律性と協調、ルール、振り返り
- ・アジャイル開発プロジェクト管理：会議体、ロール(役割)、反復、ドキュメント、チーム編成、計画、見積り、ビジョン、品質
- ・アジャイル開発の技能：ペアプログラミング、リファクタリング、常時結合、テスト駆動開発

アジャイル開発に特化した内容であり、IoT検定のような幅広い知識を必要とする試験ではありません。

(4) 試験対策本

アジャイル開発検定の公式テキストとして次の本がありますが、問題集はありません。『アジャイル検定公式テキスト アジャイルソフトウェア開発技術者検定試験 レベル1対応』(リックテレコム)

この本に沿った内容で試験が行われますので、しっかり理解する必要があります。ほぼ章ごとに試験と同じ形式の四者択一問題がありますので、章の内容を理解したどうかをチェ

ックできます。

テキストに入っている問題は数が少ないため、慣れるためには問題集がほしいところですが、現在のところありません。これがこの試験を受ける時のネックになります。

(5) 参考資料

テキストの中で何度か引用されている本があります。それは、『アジャイルサムライ-達人開発者への道-』（オーム社）です。

アジャイル開発を実際に行うときのポイントや疑問に答えてくれる本ですし、公式テキストの内容を深く理解するうえで読んでおくべき本です。

また、アジャイル開発では手法によって用語が異なっています。例えば、反復を表すイテレーションがスクラムではスプリントと呼ばれています。スクラムとの用語の対応は、公式テキストの該当ページの欄外に書かれていますが、この本でも公式テキストとは異なる用語が使われている部分があります。どの用語が使われるかわかりませんので、この本で使われている用語も覚えておく必要があります。

試験とは直接関係ありませんが、スクラムを理解するのに、スクラムをシステム開発に適用した一人であるジェフ・サザーランドが書いた『スクラム 仕事が4倍速くなる“世界標準”のチーム戦術』（早川書房）があります。スクラムを理解するうえでよい本ですので、一読をお薦めします。ただし、直接、試験対策にはなるものではありません。

拙著『ITコンサルタントが書いたデジタル技術入門』（Kindle 本）や研修コースシリーズ「デジタル技術超入門」のクラウド／アジャイル編や「SEのためのデジタルシステム入門」のアジャイル編もご参考にいただければと思います。

(5) 試験・発表

IoT 検定と同じ会場で受験。したがって、手順は IoT 検定と同様。試験時間は 60 分間。IoT 検定と違ったのは問題集がなく、アジャイル開発に関する四者択一問題に慣れていないため、開始から 10 分くらいは頭が回らず不安を抱えながら解答。それでも解答を進め、35 分後にはすべての問題に解答。時間が十分あるので、一問目からじっくり見直し。読み間違いや選択ミスしていたものを修正。5 分くらい時間が残っていましたが、これ以上考えても同じかと思い終了。

アンケートを入力して結果を確認。87 点で合格でした。後日、認定証が郵送されてきました。